

ムダなものかすきでして... ⑤

テレビで北九州市の成人式を見て 関心がわいた話

先日テレビのニュースで北九州市の成人式の映像を見て、そのド派手な衣装に驚きました。

目くらむような金色の着物、虹色のリーゼントヘア、フルネーム入りののぼりや扇子、昔話の挿絵で見た天女の羽衣のようなものを両肩から頭上に背負っている青年や、スワロフスキーが散りばめられたギャル風着物の女性など、なんとも楽しい！ マツケンサンバのステージに混じっても主役に負けない賑やかさです。

番組が追った青年の衣装の総額は30万円ほど。学生ではなく働いているようで、衣装代は全て自費。この日のためにお金をため、大きなリーゼントを作るために髪を伸ばし、衣装屋さんと何度も打ち合わせして独自の衣装を作り、終わったらバツサリ髪を切るのだそう。お金も時間も情熱もかけているのがよくわかります。

地元の衣装屋さんに大金を落として地域経済にも貢献している。カメラは彼の実家までついていき、子ども時代はいろいろ大変だったと感慨深げに話すお母さんの前でド派手な衣装のままはにかんでいる青年が可愛くもあり。

僕自身の成人式を振り返ると20歳当時はまだ学生で親に扶養されていて、周囲が行くから一応行っておくくらいの感覚での参加でした。偉い人が話しているのをぼんやり眺めただけで、自分が大人になったのだという意識はゼロ。

それに比べて彼らの当事者っぷりたるや。成人式は自分たちのための式典で自分たちが楽しむんだという意識が素晴らしいなと感じました。これだけやりきった彼らは、本来の成人式の意義であろう子どもと大人の節目を少なくとも僕よりは意識できてるんじゃないかな。

この日のために作ったド派手な衣装を今後活用できる機会はほぼ無いでしょう。無理やりごみ問題に結びつけると、これらは3Rからは程遠い買い物だと言えます。でも、儀式というものはそもそもムダが多いもので、非日常だからこそ意味がある。コラムのタイトルにしているように、僕はそういうムダなものが好きでして。もっと言えば社会を作っていくうえでそのムダはムダではなく、役に立っていると考えています。

この衣装を作ってるのはどんな人？と気になり検索してみたところ、小倉に本店を構える若者向け着物に強い貸衣装店で、そこで先述のオーダー衣装の制作やメイク、撮影までやっているようです。自社で若い子向けのオリジナル着物を何千着と作って持っていて、コロナ前は毎年成人の日に千着も貸し出していたそう。

このお店は東京(なんと銀座!)、千葉、大阪にも出店しているのですが、北九州以外でのド派手な衣装の受注はそこまで多くなく、支店で衣装制作のオーダーがあった場合でも小倉本店で作って送るのだとか。もともとブライダル向けの貸衣装が中心だったのが、2003年に新成人2人の金と銀の羽織袴の注文にこたえて作ったことから地域に広まり今に至る。

目立ちたい新成人の地域性と、地域のお客さんの要望に親身にこたえ続けるお店があったからこそ、長年かけて衣装が発展してきたのでしょう。もはや小倉発の新しい文化と言ってぜんぜん過言じゃないと思います。

バイクの暴走行為や酔って迷惑をかけるのは困りますが、自分の着たい服で子ども時代の最後を飾って区切りをつけるの、悪くないと思います。今は似たような方向性の衣装が多いけど、別のメーカーが台頭したり、器用な新成人が自作したり、より多様になっていったら面白いな。ちなみに引きの映像を見るとほとんどの男性はスーツで女性も普通の振り袖が多く、特別な衣装の人は一握りです。みんなが派手なわけではありません。

最後に、この貸衣装店が成人式で新たに作る衣装はほとんどが買取でなくレンタルなのだそう。着物についている大きな名前などはワッペンでできており、名前だけ外して着物はまたレンタルすると。そうやって個性的なレンタル着物の在庫数が増えていく仕組みなんですね。実はエコな企業でもあった！

